

## ことわざ表現から観た『シェイクスピアのソネット』の創作時期 Dating Shakespeare's Sonnets through Proverbs

東郷 公德

TAKANORI TOGO

Shakespeare's Sonnets still remain a well of enigmas. The question when Shakespeare wrote 154 sonnets is one of the mysteries. Yet since the 1990s, something like a consensus seems to have emerged among Shakespearean scholars that Shakespeare continued to write, or at least to revise his sonnets up to the time of the publication of the 1609 Quarto. This paper is an attempt to shed some light upon the question concerning the dating of Shakespeare's Sonnets through the proverbial language. Using R.W. Dent's index to the proverbs in Shakespeare, we first choose the four sonnets, 19, 24, 47 and 94, which contain the proverbs that also appear in later plays. Then we examine these four sonnets, looking for other evidence that connects them to the later plays written after 1600. The result is that there seems to be some sort of connection between these four sonnets and the later works of Shakespeare.

### はじめに

『シェイクスピアのソネット』(*Shakespeare's Sonnets*)をめぐってはさまざまな謎が残されている。そこに収められた154篇のソネットがいつごろ書かれたのか、という創作時期をめぐる問題もそうした謎のひとつである。このいわゆる『ソネット集』(*The Sonnets*)の初版は1609年に出た四つ折本であるが、従来多くの研究者たちが、その創作時期は1590年代前半から半ばにかけてであると考えてきた。しかし、1990年代以降、シェイクスピアは154篇のソネットのうちの少なくとも一部を1600年以降になって書き、1609年の四つ折本出版の直前まで、全体にわたって手を加え続

けた、という見方をする研究者が増えてきた。1999年に出版された『シェイクスピアのソネット』に関する評論集の編者ジェームズ・シャイファー (James Schiffer) は、「1609年の出版直前まで、シェイクスピアはソネットを書き続けた、あるいは改訂を加え続けた、ということが、ここ10年ほどの間に(研究者たちの)共通の認識として認められるようになってきた」と書いている<sup>1</sup>。たとえば、第3アーデン版(1997年)を編集したキャサリン・ダンカン＝ジョーンズ (Katherine Duncan-Jones) などは、ソネットについて、「内的な証拠同様、外的な出来事への言及からみても、1603年から1604年にかけて集中的に書かれ(そしておそらく改訂され)その作業は断続的に出版の直前まで続いたかもしれない」と考えている<sup>2</sup>。

本稿は、ことわざ表現を通して、このような『ソネット集』の創作時期をめぐる問題にいくらかでも光を当ててみようとする試みである。ここでは、まず、『ソネット集』の各ソネットに現れるのと同じことわざ表現が他のシェイクスピアの作品に現われる頻度を作品ごとに調べる。そして、その結果から、シェイクスピアの作家活動の後期、ここでは1600年前後以降に書かれたと考えられている作品との一致が比較的多く見られる4つのソネットを選び、それぞれについて、ことわざ表現以外に、その創作時期が推測可能となるような要素がないかどうか検証する。

シェイクスピア作品に表れることわざ表現に関する研究では、1万を超えることわざを集めてモリス・パーマー・ティリー (Morris Palmer Tilley) が編纂した『16 - 17世紀イングランド諺辞典』(*A Dictionary of the Proverbs in England in the Sixteenth and Seventeenth Centuries*, 1950) が金字塔であり、その後の研究は、すべて彼の業績を出発点としていたといっても過言ではない。そうした後続研究の中に、ロバート・ウィリアム・デント (Robert William Dent) の仕事がある。デントは、ティリーの研究をもとに、独自の判断による取捨選択を加え、シェイクスピア作品に現われることわざ表現だけを集めた『シェイクスピアのことわざ表現：索引』(*Shakespeare's Proverbial Language: An Index*, 1981) を著した。これはデント自身の言葉によれば、「いちいちティリーを見なくても」用が足りることを意図した「シェイクスピアを対象を絞ったティリーの辞書の補遺」である<sup>3</sup>。

本稿では、このデントの著作をもとに作業を進める。まず、この著作

から、どのソネットにどのことわざが出ているかを示す「索引」と、それに対応することわざを抜き出した。それが、本稿の後ろに載せている「『ソネット集』に現われることわざ：索引」および「『ソネット集』に現われることわざ一覧」である。さらに、各ソネットに現われることわざと同一のものが現われているシェイクスピア作品について、作品ごとの一致の頻度を表にした。(表1)

これらのリストと表をもとに、ここでは、ソネットの中から、1600年前後以降に書かれたと考えられている作品と同一のことわざが現われる頻度が比較的高かったものを4篇選んだ。それは、19番、24番、47番、94番である。以下、これら4篇のソネットについて、創作時期を推測する手がかりが他にないかどうかを、ひとつひとつ検証する。

#### 四つのソネット

##### 19

Devouring time, blunt thou the lion's paws,  
 And make the earth devour her own sweet brood;  
 Pluck the keen teeth from the fierce tiger's jaws,  
 And burn the long-lived Phoenix in her blood;  
 Make glad and sorry seasons as thou fleet'st,  
 And do whate'er thou wilt, swift-footed time,  
 To the wide world and all her fading sweets:  
 But I forbid thee one most heinous crime,  
 O carve not with thy hours my love's fair brow,  
 Nor draw no lines there with thine antique pen;  
 Him in thy course untainted do allow  
 For beauty's pattern to succeeding men.  
 Yet do thy worst, old Time, despite thy wrong,  
 My love shall in my verse ever live young. <sup>4</sup>

〔このソネットに現われることわざと、他作品の関連箇所〕<sup>5</sup>

1.1. T326 TIME devours (consumes, wears out) all things

#### 4 東郷 公德

LLL 1.1.4, TNK 1.1.69f.

l.6. T327 TIME flees away without delay (has wings)

AYL 3.2.306

l.13 W914 Let him do his WORST

H5 3.3.5, Oth. 1.2.17, 5.2.159, Lr. 4.6.137, Mac. 3.2.24,  
Cor. 5.2.105f

#### 〔大意〕

すべてをむさぼり食らう時よ、自然界のどんなものを破壊してもかまわれないが、私の愛する人には手を出すな。しかし、お前が何をしようと、私の愛する人は私の詩の中で永遠に若いままで生きるのだ。

T326について、デントは取り上げていないが、後期ロマンス劇のひとつ『ペリクリーズ』(Pericles, 1607 - 8年頃)の中にも、同じような内容の「時」への言及がある。

Whereby I see that Time's the king of men;  
He's both their parent, and he is their grave,  
And gives them what he will, not what they crave. (2.3.45-7)

また、ここで思い出されるのは、同じく後期ロマンス劇である『冬物語』(*The Winter's Tale*, 1611年)最終幕で、主人公レオンティーズ(Leontes)が、妃ハーマイオニ(Harmione)の彫像(実は生きていた本人)と対面したときの台詞である。

Hermione was not so much wrinkled, nothing  
So aged as this seems. (5.3.28-29)

この作品では、第4幕冒頭に擬人化された「時」そのものが登場して16年の歳月が過ぎ去ったことを伝える。上の台詞でレオンティーズが言及しているハーマイオニのしわは、まさにその16年の間に「時」の手によって刻まれたものであった。「時」が最愛の者の顔にしわを刻み込む、というイ

メージはソネット19番と共通している。

さらに、第3アーデン版でダンカン = ジョーンズは、11行目の“untainted”への注釈で、“unsullied, untouched; but also uninjured”とした上で、『十二夜』(*Twelfth Night*, 1600 - 02頃)の第3幕のマライアの台詞“sure the man is tainted in's wits” (3.4.13)を参照するように指示している<sup>6</sup>。アレキサンダー・シュミット (Alexander Schmidt) の『シェイクスピア語彙目録』(*Shakespeare Lexicon and Quotation Dictionary*)では、この『十二夜』の“taint”の語義を“to infect with a disease”としている<sup>7</sup>が、19番のソネットで、このシュミットの語義を当てはめて考えると、性病のイメージも加わることになり、なかなか面白い。同じ語義の例としてシュミットが挙げている用例は、『十二夜』からもう1件ある他は、『ヴェニスの商人』(*The Merchant of Venice*, 1596 - 8頃) (1件)、『トロイラスとクレシダ』(*Troilus and Cressida*, 1601 - 2年頃) (1件)、『尺には尺を』(*Measure for Measure*, 1604年頃) (2件)、『コリオレーナス』(*Coriolanus*, 1608年頃) (1件)、と圧倒的に後期の作品からの引用が多い。

このように、ソネット19番では、ことわざ以外の点でも、後期の作品とのつながりが強く見られると言って良いだろう。

## 24

Mine eye hath played the painter, and hath steeled  
 Thy beauty's form in table of my heart;  
 My body is the frame wherein 'tis held,  
 And perspective it is best painter's art;  
 For through the painter must you see his skill,  
 To find where your true image pictured lies,  
 Which in my bosom's shop is hanging still,  
 That hath his windows glazed with thine eyes:  
 Now see what good turns eyes for eyes have done:  
 Mine eyes have drawn thy shape, and thine for me  
 Are windows to my breast, where through the sun  
 Delights to peep, to gaze therein on thee;

Yet eyes this cunning want to grace their art:  
They draw but what they see, know not the heart.

〔このソネットに現われることわざと、他作品の関連箇所〕

l.9. T616 One good TURN asks (requires, deserves) another  
TN 3.3.15-8, MM 4.2.58f., Ham. 4.6.20-2, Ant. 2.5.58,  
Tim. 3.2.60, Son. 47.2

〔大意〕

私の眼が画家となって、私の心にあなたの姿を描いた。あなたの眼は窓ガラスとなって、そこから太陽（即ちあなた）があなたの姿を見つめている。だが、私の眼は、見たままを描くことしかできず、あなたの心までは分からない。

2行目の“table”は「絵版」という意味だが、この語義での用例は、『終わりよければすべてよし』(*All's Well That Ends Well*, 1603 - 4年頃)にある<sup>8</sup>。主人公ヘレナが、思いを寄せるパートラムへの想いを語る台詞の一部である。

to sit and draw

His arched brows, his hawking eye, his curls,  
In our heart's table (1.1.94-6)

愛する人の面影を心の絵版に描く、という奇想の内容が、ソネット24番と共通している。

8行目の“glaze”について、ダンカン=ジョーンズは、「“gazing” とのことば遊びがあるだろう」として、“glaze”が“stare”の意味で使われている例として『ジュリアス・シーザー』(*Julius Caesar*, 1599年頃)の第1幕第3場でのカスカの台詞“I met a lion/Who glazed upon me and went surly by” (1.3.20-1) を挙げている<sup>9</sup>。ここで面白いことは、『ジュリアス・シーザー』は、デントの索引に出ていることわざ表現の総数は他の作品と比較してあまり多くないのに、『ソネット集』と共通して現われることわ

ざ表現の数は全体の中で4番目に多いということである。(表1参照)さらに、ことわざ表現出現で『ジュリアス・シーザー』と一致しているソネットを見ると、番号順で見た場合に、4つのグループに分けられるように思われる。すなわち、38番、42番、44番 62番、66番 74番、85番 133番、135番、140番、143番、144番の4グループである。番号の上からも『ソネット集』のなかでそれぞれ近いところに集まって位置しているこれらの各グループのソネットが、『ジュリアス・シーザー』が書かれた時期に近い頃に書かれたり手を加えられたりしたのかも知れない。

9行目の“good turns”は性的な含意を持ちうるが、そのような例は、『アントニーとクレオパトラ』(*Antony and Cleopatra*, 1606年頃)に出て来る<sup>10</sup>。同じような例は、次にみるソネット47番にも現われる。

MESSENGER Free, madam? No. I made no such report.

He's bound unto Octavia.

CLEOPATRA For what good turn?

MESSENGER For the best turn i'th'bed. (2.5.57-59)

ここまで見たように、ソネット24番でも、ことわざ表現以外の点でも、『ジュリアス・シーザー』、『終わりよければすべてよし』、『アントニーとクレオパトラ』といった1600年前後より後に書かれた作品との関連が見られた。

47

Betwixt mine eye and heart a league is took,  
 And each doth good turns now unto the other;  
 When that mine eye is famished for a look,  
 Or heart in love with sighs himself doth smother,  
 With my love's picture then my eye doth feast,  
 And to the painted banquet bids my heart;  
 Another time mine eye is my heart's guest,  
 And in his thoughts of love doth share a part.

So either by thy picture or my love,  
Thyself away, art present still with me:  
For thou no further than my thoughts canst move,  
And I am still with them, and they with thee;  
Or if they sleep, thy picture in my sight  
Awakes my heart to heart's and eye's delight.

〔このソネットに現われることわざと、他作品の関連箇所〕

1.2. T616 One good TURN asks (requires, deserves) another  
TN 3.3.15-8, MM 4.2.58f., Ham. 4.6.20-2, Ant. 2.5.58,  
Tim. 3.2.60, Son. 24.9

〔大意〕

私の眼と心の中に同盟が結ばれ、お互いに助け合ってあなたへの思いを大切にしている。おかげで、たとえあなたが遠くにいても、私はいつでもあなたと一緒にいることができる。

1行目で、過去分詞として“took”が使われている。これは、エリザベス朝時代の英語では良く使われた形のようなのである。シェイクスピアでは、『ジュリアス・シーザー』や『尺には尺を』に例を見ることができる<sup>11</sup>。

Where I have took them up. (*Julius Caesar*, 2.1.50)

And He that might the vantage best have took  
Found out the remedy. (*Measure for Measure*, 2.2.74-75)

2行目の“good turns”については、ソネット24番で触れたとおりである。24番と47番は、この語句の使用だけではなく、眼と心を並べた奇想の内容など、他にも共通点があり、つながりが感じられる。

ソネット47番については、これ以外に後期の作品とのつながりを示唆する要素を見つけることは出来なかった。

They that have power to hurt, and will do none,  
That do not do the thing they most do show,  
Who, moving others, are themselves as stone,  
Unmoved, cold, and to temptation slow:  
They rightly do inherit heaven's graces,  
And husband nature's riches from expenses;  
They are the lords and owners of their faces,  
Others, but stewards of their excellence.  
The summer's flower is to the summer sweet,  
Though to itself it only live and die,  
But if that flower with base infection meet,  
The basest weed outbraves his dignity:  
For sweetest things turn sourest by their deeds;  
Lillies that fester smell far worse than weeds.

〔このソネットに現われることわざと、他作品の関連箇所〕

- 1.1. H170 To be able to do HARM and not to do it is noble  
LLL 2.1.58, AYL 4.3.128, MM 2.2.107-9, Cor. 5.1.18,  
Cym. 5.5.418f., Tmp. 5.1.27f.

〔大意〕

人を害する力を持っているにもかかわらず、誘惑に負けず、自分の力を決して悪用することのない人は、真に天の恵みを受け継ぐものだ。しかし、最も美しい花も、行いによって品格を失い、雑草よりもひどい悪臭を放つようになってしまうものだ。

1行目の「人を傷つける力を持っているのに何もしない人たち」という詩行から思い出されるのは、『尺には尺を』で、見習い修道女イザベラ (Isabella) が、厳格な大公代理アンジェロ (Angelo) に、姦淫罪で死刑になるうとしている兄クローディオ (Claudio) の助命嘆願をする際の台詞であ

る。

O, it is excellent  
To have a giant's strength, but it is tyrannous  
To use it like a giant. (*Measure for Measure*, 2.2.108-10)

このイザベラの台詞とソネット94番の1行目以下7行目までは同じような内容である。さらに、注目すべきなのは、放蕩男ルーチオ (Lucio) が語るアンジェロ像が、94番の3から4行目で述べられる人物像と奇妙に重なっている点である。

But it is certain that when he makes water, his urine is congealed ice; that I know to be true. And he is a motion ungenerative; that's infallible. (3.2.104-7)

アンジェロも94番で描かれる理想の人物像も、ともに「冷たく」「動じない」。そのアンジェロは、修道女姿の潔癖なイザベラに、かえって男としての欲望を目覚めさせられ、「お前が俺に身を任せるなら兄の命は助けてやろう」という卑劣な申し出をするにいたる。その後、アンジェロは、クローディオの命を救ってやるとした約束を破り、かえってその処刑を早め、証拠として首を届けるように指示する。天使 (Angelo) は堕ちたのである。その姿は、まさに94番の最終行で描かれるような、「雑草よりも悪臭を放つ百合の花」のようである。このように、ソネット94番と『尺には尺を』の間には、強い関連性が感じられる。

また、3行目から5行目にかけて述べられている「動ぜず、冷静で、誘惑にたやすく負けない」人物像は、ハムレットが語るホレーシヨの人物像とも重なっている<sup>12</sup>。

Since my dear soul was mistress of her choice,  
And could of men distinguish her election,  
Sh'ath seal'd thee for herself; for thou hast been  
As one, in suffring all, that suffers nothing,

A man that Fortune's buffets and rewards  
Hast ta'en with equal thanks; and blest are those  
Whose blood and judgement are so well commeddled  
That they are not a pipe for Fortune's finger  
To sound what stop she please. Give me that man  
That is not passion's slave, and I will wear him  
In my heart's core, ay, in my heart of heart,  
As I do thee. (3.2.64-75)

このような「激情の奴隷とならない」人物は、シェイクスピアにとって、ひとつの理想の人物像だったのだろう。

9行目から10行目にかけての「はかない命の美しい夏の花」のイメージは、『十二夜』でオーシーノー (Orsino) が女性について語る台詞を思い出させる<sup>13</sup>。

For women are as roses, whose fair flower  
Being once display'd, doth fall that very hour. (2.4.38-39)

このように、ソネット94番は、ことわざ表現以外の面でも、『尺には尺を』、『ハムレット』、『十二夜』といった後期の作品と強いつながりを持っているように思われる。

#### まとめ

以上見てきたように、ことわざ表現の面で、後期のいくつかの作品と共通する表現が現われる上記4篇のソネットは、ことわざ表現以外の点でも、後期の作品との関連性が見られる。このような手法によって、何らかの断定的な結論を下すことは出来ない。しかし、これらのソネットは、関連性が見出される後期の作品と同じころ、すなわち1600年前後以降に書かれた、ないしは改訂された可能性が高い、と言って良いのではないだろうか。

註

1. James Schiffer (ed.). *Shakespeare's Sonnets: Critical Essays*. Garland Publishing, New York, 1999. p.8.
2. Katherine Duncan-Jones (ed.). *Shakespeare's Sonnets*. The Arden Shakespeare. Thomas Nelson and Sons, Nashville, 1997. p.28.
3. R.W. Dent. *Shakespeare's Proverbial Language: An Index*. University of California Press, Berkeley and Los Angeles, 1981. Intro. xii.
4. 本文中のシェイクスピア作品からの引用は、すべて次の版による。Richard Proudfoot, Ann Thompson, and David Scott Kastan (ed.). *The Arden Shakespeare Complete Works*. Revised Edition. Thomson Learning, London, 2001.
5. ことわざ表現およびそのインデックス記号については、デントがティリーのものをそのまま使っているが、本稿でもそれを踏襲する。シェイクスピア作品を表す略号についても同様であるが、これについては、後に掲載した「シェイクスピア作品を表す略号一覧」を参照のこと。
6. Duncan-Jones. p.148.
7. Alexander Schmidt. *Shakespeare Lixicon and Quotation Dictionary*. Third Edition, revised and enlarged by Gregor Sarrazin, Georg Reimer, Berlin, 1902. Rpt. Dover Publications, New York, 1971. “taint” の項参照。
8. Duncan-Jones. p.158.
9. 同上
10. 同上
11. E.A.Abbot. *A Shakespearian Grammar: An Attempt to Illustrate Some of the Differences Between Elizabethan and Modern English*. Originally published from Macmillan, London, 1870. Rpt. Dover Publications, New York, 2003.
12. 田村一郎、坂本公延、六反田収、田淵實貴男著 『シェイクスピアのソネット：愛の虚構』、文理、1975年、283頁。
13. Duncan-Jones. p.298.

『ソネット集』に現われることわざ：索引

3.10 (A310), 5.14 (S408), 7.1-12 (S979), 8.14 (O52, 54), 15.3 (W882), 17.10 (M567), 18.1 (S967), 19.1 (T326), 19.6 (T327), 19.13 (W914), 21.14 (P546), 22.6f. (L565), 23.13f (L165), 24.9 (T616), 26.13f. (H246), 34.1-4 (S968), 35.2 (R182), 35.4 (C56), 35.5 (M116), 38.9 (T91.1), 39.1ff. (F696), 39.2 (H49), 42.13 (F696), 44.7f. (T240), 47.2 (T616), 48.14 (P570), 52.3f. (P417), 54.3ff. (R178), 59.1 (T147), 61.10-3 (F716), 62.13 (F696), 66.9 (T146), 70.2 (E175), 70.7 (C56), 74.7 (E30), 74.8 (H49), 77.7f. (D321), 85.1 (T416), 87.14 (M754.1), 90.7 (N173.1, N166), 93.13f. (A291.1), 94.1 (H170), 94.3f. (S878.2, 876), 94.13f. (C668), 94.14 (L297), 96.9f. (W614), 98.4 (L92a.1), 98.9-12 (L296, R177f.), 99.8 (T239), 101.6 (T585), 102.3f. (P546), 103.3f. (T589), 103.9f. (W260), 104.9f. (D321), 105.13f. (B163), 107.1 (S666.2), 109.3f. (L565), 112.10f. (A32), 114.7 (B316), 116.2ff. (L539), 118.5-8 (M839, S97, H560), 119.11f. (F40), 121.1f. (D336), 126.11 (D168), 126.12 (Q16), 127.9 ((R32.3), 130.3 (S591), 131.10f. (M1013), 133.6 (F696), 135f. (W723, 397), 135.1 (W392), 135.9f. (S181), 136.8 (O52, 54), 137.1 (L506), 137.12 (F17), 140.2 (T416), 143.13 (W723), 144.14 (F277, M1037.1), 145.10f. (N164), 146.5 (M327), 147.9 (C921), 147.10 (D211), 147.14 (H397, N164.1), 152.5f. (F107)  
(Total: 92)

『ソネット集』に現われることわざ一覧

**A32 As deaf as an ADDER**

Son. 112.10f., Tro. 2.2.172, 2H6 3.2.76

**A291.1 An APPLE may be fair without and bad within**

Son. 93.13f., MV 1.3.101

**A310 In the APRIL of one's age**

Son. 3.10

**B316 Bad is the Best**

Son. 114.7, 3H6 5.6.91, (PP 7.18)

**B163 BEAUTY and folly are often matched together**

Son. 105.13f., AYL 1.2.37-9, 3.3.30f., Tro. 5.2.67, Ham. 3.1.102-4

**C56 The CANKER soonest eats the fairest rose**

Son. 35.4, 70.7, 2H4 2.2.94f., Rom. 2.3.30, Ham. 1.3.39f.,  
Tmp. 1.2.416

**C668 The CORRUPTION of the best is worst**

Son. 94.13f.

**C921 Past CURE past care**

Son. 147.9 LLL 5.2.28, 1H6 3.3.3f., R2 2.3.171, WT 3.2.222f.

**D168 To pay one's DEPT to nature**

Son. 126.11, R3 2.2.94f., Mac. 5.9.5

**D211 DESIRE has no rest**

Son. 147.10

**D321 To move as does the DIAL hand, which is not seen to move**

Son. 77.7f., 104.9f., Oth. 4.2.54f.

**D336 There is small DIFFERENCE to the eye of the world in  
being nought and being thought so**

Son. 121.1f.

**E30 EARTH must go to earth (Dust to dust)**

Son. 74.7, 1H4 5.4.85, Rom. 2.3.9, 3.2.59, Cym. 4.2.262ff.

**E175 ENVY (Calumny) shoots at the fairest mark (flowers, virtue)**

Son. 70.2, MM 3.2.186f., Ham. 1.3.38, WT 2.1.73f.

**F17 To set a good FACE on the matter (on a bad matter)**

Son. 137.12

**F40 The FALLING-OUT of lovers is a renewing of love**

Son. 119.11f.

**F107 He finds FAULT with others and does worse himself (He  
that will blame another must be blameless himself)**

Son. 152.5, LLL 4.3.130, Ado 1.1.288f., AYL 2.7.64f.,  
MM 2.2.136-41,  
Tim. 5.1.39, Luc. 612f.

**F277 One FIRE (heat) drives out another**

Son. 144.14, TGV 2.4.192, Jn. 3.1.277, 5.1.48, Rom. 1.2.45,  
JC 3.1.171, Cor. 4.7.54, (PP 2.14)

**F696 A FRIEND is one's second self**

Son. 39.1ff., 42.13, 62.13, 133.6, TGV 3.1.172, AYL 1.3.97,  
R3 2.2.151, R2 2.1.275, JC 2.1.274, 282, Ham. 1.2.161

**F716 One good FRIEND watches for another**

Son. 61.10-3

**H49 My better HALF**

Son 39.2, 74.8, Err. 3.2.61, LLL 5.2.249, MV 3.2.248, Ado 2.3.170,  
JC 2.1.274,

**H170 To be able to do HARM and not to do it is noble**

Son. 94.1, LLL 2.1.58, AYL 4.3.128, MM 2.2.107-9, Cor. 5.1.18,  
Cym. 5.5.418f., Tmp. 5.1.27f.

**H246 He dares not show his HEAD (himself) (for debt)**

Son. 26.13

**H397 As black (dark) as HELL**

Son. 147.14, LLL 4.3.250, MND 3.2.357, MV 5.1.87, TN 4.2.34f., 46  
H8 1.2.123, Ham. 3.3.94f., Lr. 3.7.60

**H560 Too much HONEY cloy the stomach**

Son. 118.5-8, MND 2.2.137f., TN 1.1.2f., MM 1.2.126, 1H4 3.2.71f.,  
Rom. 2.6.11-3, Luc. 698f.

**L92a.1 To LAUGH and leap (leap and laugh)**

Son. 98.4, LLL4.3.146, MV 1.1.49

**L165 Whom we love best to them we can say LEAST**

Son. 23.13, TGV 1.2.32, 2.2.17, MND 5.1.104f., Ado 2.1.306f.,  
Lr. 1.1.62, Ven. 1146

**L296 As white as a LILY**

Son. 98.9, TGV 2.3.20, Tit. 2.4.44, Lr. 2.2.17, Mac. 5.3.15,  
Cym. 2.2.15f., Ven. 228, 362-4, Luc. 71, 386

**L297 The LILY is fair in show but foul in smell**

Son. 94.14

**L506 LOVE is blind**

Son. 137.1 TGV 2.1.70, 2.4.96, 4.2.46f., MV 2.6.36, H5 5.2.300f.,  
Rom. 2.1.32f., 3.2.9

**L539 A perfect LOVE does last eternally**

Son. 116.2ff.

**L565 The LOVER is not where he lives but where he loves**

Son. 22.6f., 109.3f., LLL 5.2.816, TN 1.5.269, 4.1.59, Tro. 1.1.4f.,  
2H6 3.2.408, R3 1.2.204, Rom. 1.1.197f., 2.1.1, 2.2.164, Ven. 580-2

**M116 Every MAN has (No man is without) his faults**

Son. 35.5, Wiv. 1.4.14f., Ant. 5.1.32f., Tim. 3.1.27

**M327 No MAN has (To have no) lease (letters) of his life**

Son. 146.5, 2H6 4.10.5f., Mac. 4.1.98f.

**M567 Old MEN and far travellers may lie by authority**

Son. 17.10

**M754.1 No such MATTER**

Son. 87.14, Ado 1.1.190, 2.3.216f., 5.4.82, TN 3.1.5, Tro. 3.1.88  
2H4 Ind. 15, Ham. 2.2.267

**M839 Sweet MEAT must have sour sauce**

Son. 118.5-8, AYL 3.3.30f., Rom. 2.4.80-2

**M1013 One MISFORTUNE comes on the neck of another**

Son. 131.10f., Ham. 4.7.163

**M1037.1 Bad MONEY drives out good**

Son. 144.14, (PP 2.14)

**N164 After NIGHT comes the day**

Son. 145.10f., MND 3.2.431f., Mac. 4.3.239f.

**N164.1 As dark as NIGHT**

Son. 147.14

**N166 A blustering NIGHT a fair day**

Son. 90.7

**N173.1 Next the dark NIGHT the glad morrow**

Son. 90.7

**O52 One and none is all one (One is as good as none, One is none)**

Son. 8.14, 136.8, Rom. 1.2.32f.

**O54 One is no number**

Son. 8.14, 136.8, Rom. 1.2.32f.

**P417 PLEASURE the rarer used the more commendable**

Son. 52.3

**P546 He PRAISES who wishes to sell**

Son. 21.12, 102.3f., LLL4.3.236, Tro. 4.1.78f.

**P570 The PREY entices the thief**

Son. 48.14, Ven.724

**Q16 To get (have) one's QUIETUS (quietus est)**

Son. 126.12, Ham. 3.1.74

**R32.2 As black as a RAVEN('s feather)**

Son. 127.9, Tit. 2.3.83, Rom. 3.2.19, 76, TNK 4.2.83f.

**R177 As red (ruddy) as a ROSE**

Son. 98.10, 2H4 2.4.25, Rom. 4.1.99, Ven. 10, Luc. 71, 258

**R178 As sweet as a ROSE**

Son. 54.3ff., 98.10f., Rom. 2.2.43f., WT 4.4.220

**R182 No ROSE without a thorn (prickle)**

Son. 35.2, AYL 3.2.111f., AWW 1.3.129f., 4.2.18f., 1H6 2.4.69,  
Per. 4.6.35f., Ven. 574, Luc. 492

**S97 Sweet SAUCE begins to wax sour**

Son. 118.5-8

**S181 The SEA refuses no river (is never full)**

Son. 135.9f., TN 1.1.10f., 2.4.100f.

**S408 More SHOW than substance**

Son. 5.14, Rom. 3.2.77

**S591 As white as (the driven) SNOW**

Son. 130.3, MND 3.2.141f., Rom. 3.2.19, Ham. 3.3.46, 4.5.36, 195,  
Oth. 5.2.4, WT 4.4.218, 363f., TNK 5.1.139f., Ven. 362-4

**S666.2 A prophetic (presaging) SOUL**

Son. 107.1, Ham. 1.5.40

**S876 As cold as a (any) STONE**

Son. 94.3, H5 2.3.24, Ven. 211

**S878.2 As steadfast as (the, any, a) STONE(S)**

Son. 94.3f.

**S967 As good (etc.) as one shall see in a SUMMER'S day**

Son. 18.1, MND 1.2.86f., H5 3.6.63f., 4.8.22

**S968 Although the SUN shines leave not your cloak at home**

Son. 34.1-4

**S979 The rising, not the setting, SUN is worshipped by most men**

Son. 7.1-12, R2 2.4.21-3, 3.2.217f., Tim. 1.2.145

**T91.1 To be the TENTH worthy (muse)**

Son. 38.9

**T147 There is no new THING under the sun**

Son. 59.1

**T239 To sit (stand) upon THORNS**

Son. 99.8, WT 4.4.585

**T240 As swift as THOUGHT**

Son. 44.7f., LLL4.3.327, 5.2.261, MV 3.4.52, AYL 4.1.142,  
Tro. 4.2.14, Jn. 4.2.175, 2H4 4.3.34, H5 3Chorus 1-3, 5Chorus 15,  
Rom. 2.5.4f., Ant. 4.6.34, WT 4.4.544, Luc. 12.16,

*Upon a thought:* Mac. 3.4.54,

*With a thought:* 1H4 2.4.217, JC 5.3.19, Ant. 4.14.9, Tmp. 4.1.164

**T326 TIME devours (consumes, wears out) all things**

Son. 19.1, LLL1.1.4, TNK 1.1.69f.

**T327 TIME flees away without delay (has wings)**

Son. 19.6, AYL 3.2.306

**T416 To be TONGUE-TIED**

Son. 66.9, 85.1, 140.2, MND 5.1.104, Tro. 3.2.210, 1H6 2.4.25,  
3H6 3.3.22, R3 3.7.145, 4.4.132, JC 1.1.62, WT 1.2.27

**T585 TRUTH needs no colors**

Son. 101.6, LLL 4.2.149f.

**T589 The TRUTH shows best being naked**

Son. 103.3f., LLL 5.2.710, 1H6 2.4.20, Tim. 5.1.67

**T616 One good TURN asks (requires, deserves) another**

Son. 24.9, 47.2, TN 3.3.15-8, MM 4.2.58f., Ham. 4.6.20-2,  
Ant. 2.5.58, Tim. 3.2.60

**W260 Let WELL alone**

Son. 103.9f., Jn. 4.2.28f., Lr. 1.4.346

**W392 To be wedded to one's WILL**

Son. 135.1, LLL 2.1.211f.

**W397 WILL will have will (wilt) though will woe win**

Son. 135f.

**W614 A WOLF in a lamb's (sheep's) skin**

Son. 96.9f., 1H6 1.3.55, 2H6 3.1.77f., Rom. 3.2.76

**W723 WOMEN will have their wills**

Son. 135f., 143.13, Err. 4.2.18, Jn.. 2.1.194, JC 2.2.71, Cym. 2.5.34

**W882 This WORLD is a stage and every man plays his part**

Son. 15.3, MV 1.1.77f., AYL 2.7.139f., 2H4 1.1.155-9, Lr. 4.6.183,  
Mac. 5.5.24f.

**W914 Let him do his worst**

Son. 19.13, H5 3.3.5, Oth. 1.2.17, 5.2.159, Lr. 4.6.137, Mac. 3.2.24,  
Cor. 5.2.105f.

**シェイクスピア作品を表す略号一覧**

Ado	<i>Much Ado About Nothing</i>
Ant.	<i>Antony and Cleopatra</i>
AWW	<i>All's Well That Ends Well</i>
AYL	<i>As You Like It</i>
Cor.	<i>Coriolanus</i>
Cym.	<i>Cymbeline</i>
Err.	<i>The Comedy of Errors</i>
Ham.	<i>Hamlet</i>
1H4	<i>The First Part of King Henry the Fourth</i>

2H4	<i>The Second Part of King Henry the Fourth</i>
H5	<i>King Henry the Fifth</i>
1H6	<i>The First Part of King Henry the Sixth</i>
2H6	<i>The Second Part of King Henry the Sixth</i>
3H6	<i>The Third Part of King Henry the Sixth</i>
H8	<i>King Henry the Eighth</i>
JC	<i>Julius Caesar</i>
Jn.	<i>King John</i>
LLL	<i>Love's Labour's Lost</i>
Lr.	<i>King Lear</i>
Mac.	<i>Macbeth</i>
MM	<i>Measure for Measure</i>
MND	<i>A Midsummer Night's Dream</i>
MV	<i>The Merchant of Venice</i>
Oth.	<i>Othello</i>
Per.	<i>Pericles</i>
PP	<i>The Passionate Pilgrim</i>
R2	<i>King Richard the Second</i>
R3	<i>King Richard the Third</i>
Rom.	<i>Romeo and Juliet</i>
Shr.	<i>The Taming of the Shrew</i>
Tmp.	<i>The Tempest</i>
TGV	<i>The Two Gentlemen of Verona</i>
Tim.	<i>Timon of Athens</i>
Tit.	<i>Titus Andronicus</i>
TN	<i>Twelfth Night</i>
TNK	<i>The Two Noble Kinsmen</i>
Tro.	<i>Troilus and Cressida</i>
Wiv.	<i>The Merry Wives of Windsor</i>
WT	<i>The Winter's Tale</i>

表1. ソネットと各作品に共通して登場することわざ整理の頻度一覧

Sonnets	PRVB	2H6 3H6 1H6 R3	Err	Tit	Shr	Ven	Luc	TOV	LLL	RoofR2	MNC	Jn	MV	IH4	PH4	Ado	HS	JC	AVL	TN	Ham	Wiv	Tro	AWMM	Obh	Lr	Mas	Ant	Cor	Tim	Per	Cym	WT	Temp	H8	TNK		
3.10	A310																																					
5.14	S408								1																													
7.1-12	S979								2																													
8.14	O52								1																													
8.14	O54								1																													
15.3	W882																																					
17.10	M567																																					
18.1	S967										1						2																					
19.1	T326																																					
19.6	T327																																					
19.13	W914																																					
21.14	P346																																					
22.8f	L565	1																																				
23.13	L165																																					
24.9	T616																																					
26.13f	H246																																					
34.1-4	S968																																					
35.2	R182																																					
35.4	C56																																					
35.5	M116																																					
38.9	T91.1																																					
39.1f	F696																																					
39.2	H49																																					
42.13	F696																																					
44.7f	T240																																					
47.2	T616																																					
48.14	P570																																					
52.3f	P417																																					
54.3f	R178																																					
59.1	T147																																					
61.10-3	F716																																					
62.13	F696																																					
66.9	T416																																					
70.2	E175																																					
70.7	C56																																					

Sonnet#	PRVB	2H6	SH6	IH6	R3	Err	Ttk	Sbr	Ven	Luc	TGV	LLL	Rom	R2	MNQ	Jn	IMV	IH4	2H4	Ado	H6	JC	JAYLTN	Hant	Wiv	To	AWMM	Obt	Lr	Mac	Ant	Cor	Tim	Per	Cym	WT	Temp	H8	TNK	
74.7	E30													2																										
74.8	H49					1								1																										
77.7f	D321																																							
85.1	T416			1	2																																			
87.14	M754.1																																							
90.7	N173.1																																							
93.13f	A291.1																																							
94.1	H170																																							
94.3	S878.2																																							
94.3	S876																																							
94.13f	C668																																							
94.14	L297																																							
96.9f	W614																																							
98.4	L92a.1																																							
98.9-12	L296						1	2	1																															
98.9-12	R17f																																							
98.10	R178																																							
99.8	T239																																							
101.6	T585																																							
102.3f	P546																																							
103.3f	T589																																							
103.9f	W280																																							
104.9f	D321																																							
105.13f	B163																																							
107.1	S666.2																																							
109.3f	L565																																							
112.10f	A32																																							
114.7	B316																																							
116.2ff	L539																																							
118.5-8	M839																																							
118.5-8	S97																																							
118.5-8	H560																																							
119.11f	F40																																							
121.1f	D336																																							
126.11	D168																																							

Sonnets	PRVB	2#B	3#B	#B	#B	Err	Ttl	S#r	Yen	Luc	TCV	LLL	Rom	R2	IMNL	Jn	MV	1#44	2#44	Adc	H5	UC	AVL	TN	Hani	Wv	Tro	AWMM	Oh	Lr	Mac	Ant	Cor	Ttm	Per	Cym	WT	Tmg	H8	TNK			
126.12	Q16																																										
127.9	R32.2						1							1																												1	
130.3	S591							1																																		1	
131.10f	M1013																									3																1	
133.6	F696																																									1	
135f	W397																																									1	
135f	W723																																									1	
135.9f	S181																																										
136.8	O52																																										
136.8	O54																																										
137.12	F17																																										
137.12	F17																																										
140.2	T416																																										
143.13	W723																																										1
144.14	F277																																										1
144.14	M1037.1																																										
145.10f	N164																																										
146.5	M327																																										
147.9	C921																																										
147.10	D211																																										
147.14	H397																																										
147.14	N164.1																																										
152.5f	F107																																										
合計		5	4	6	13	4	2	0	10	8	11	17	27	7	9	6	8	3	6	7	16	13	12	18	1	11	2	6	4	6	7	5	3	6	1	5	10	4	1	3			
総数		109	106	51	124	64	92	123	59	82	108	189	223	122	98	99	117	187	169	145	136	71	135	150	185	138	96	110	197	102	85	85	89	69	59	771	89	87	80	70			

注:「合計」は、『ソネット集』と共通して現れることわざ表現の各作品ごとの合計。「総計」は、デントのインデックスに出ている各作品ごとのことわざ表現の総数。  
(ちなみに、『ソネット集』の「総数」は92である。)

参考文献

【英文】

- Abbot, E.A. *A Shakespearian Grammar: An Attempt to Illustrate Some of the Differences Between Elizabethan and Modern English*. New York: Dover Publication, 2003. Originally published: London: Macmillan, 1870.
- Booth, Stephen (ed.). *Shakespeare's Sonnets*. New Haven: Yale University, 1977.
- Dent, R.W. *Shakespeare's Proverbial Language: An Index*. Berkeley and Los Angeles: University of California Press, 1981.
- Duncan-Jones, Katherine (ed.). *Shakespeare's Sonnets*. The Arden Shakespeare. Nashville: Thomas Nelson and Sons, 1997.
- Evans, G.Blakemore (ed.). *The Sonnets*. The New Cambridge Shakespeare. Cambridge: Cambridge University Press, 1996.
- Kerrigan, John (ed.). *The Sonnets and A Lover's Complaint*. The New Penguin Shakespeare. Harmondsworth: Penguin Books, 1986.
- Proudfoot, Richard, Ann Thompson, David Scott Kastan (ed.). *The Arden Shakespeare Complete Works*. Revised Edition. London: Thomas Learning, 2001
- Schiffer, James (ed.). *Shakespeare's Sonnets: Critical Essays*. New York: Gerland Publishing, 1999.
- Schmidt, Alexander. *Shakespeare Lexicon*. Third Edition, revised and enlarged by Gregor Sarrazin, originally published in Berlin by Georg Reimer, 1902. Rpt. New York: Dover Publications, 1971.
- Vendler, Helen. *The Art of Shakespeare's Sonnets*. Cambridge, Massachusetts: Harvard University Press, 1997.
- Wilson, F.P. (ed.). *The Oxford Dictionary of English Proverbs*. Third Edition. Originally compiled by William Geortge Smith, 1935. Oxford: Oxford University Press, 1970.

【和文】

荒井良雄、大場建治、川崎淳之助（編集主幹）『シェイクスピア大事典』、  
日本図書センター、2002年。

倉橋健編 『シェイクスピア辞典』、東京堂出版、1972年。

高橋康也、大場建治、喜志哲雄、村上淑郎編 『研究社シェイクスピア辞  
典』、研究社出版、2000年。

田村一郎、坂本公延、六反田収、田淵實貴男著 『シェイクスピアのソネ  
ット：愛の虚構』、文理、1975年。